

18歳選挙権引き下げから6年を若者と一緒に振り返る



開催日時：9月12日（日）14:00-16:00

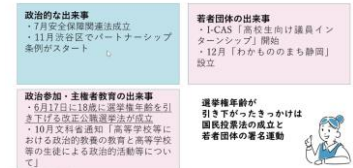
参加人数：37名(運営スタッフ含む)

**【自己紹介～モデレーターの話提供】**

最初に、モデレーターの別木さんから簡単な趣旨説明があった後、参加者・ゲストはグループごとで自己紹介・アイスブレイクを行いました。そのあと別木さんは「話題提供 6年を振り返る」と題して、2015年～2021年まで流れを「政治的なできごと」「若者団体の出来事」「政治参加・主権者教育の出来事」の三つに分類して説明していました。その中の一例を挙げると、主権者教育が、

「政治を身近に」「政治的中立性を厳密に守る」という価値観から、「自分に興味のある社会的テーマを持つ」という価値観へ変化したこと。SNS やインターネットを中心にした発信や事業が増えてきたこと、などの指摘がありました。一方で、一部の人しか主権者教育の恩恵を受けておらず、投票率もむしろ下がっていることへの懸念も別木さんは指摘していました。

2015年



別木さんの総括スライドの一部

**【若者トークセッション】**

次に、ゲストとモデレーターによるトークセッションです。ゲストは、伊藤真琴さん（学生団体 ivote）、藤原怜央さん（NPO 法人 Mielka）、伊藤和真さん（株式会社 PoliPoli）、野田みどりさん（株式会社 POTETO Media）の4名。4名には、それぞれの自己紹介、主権者教育に関わるようになった経緯や原体験について共有して頂きました。皆さん、今の

活動に至る経緯も非常に個性的で（必ずしも政治に強い興味があったわけではないなど）、聞いている側としては興味深かったです。

その後、トークセッションのテーマは、「活動をやってきた中での課題だった点」へ。ここでの論点はだまかに三つありました。一点目は、投票率の面では大きな進展がなかったことについて。ゲストからは、投票率を論点にしてしまうと、若い人は関心を持ちづらいとの指摘や、校則問題など身近なことに違和感を持ち、自己効力感を高めていくことが大切なのではないかという意見もありました。一方で、シングルイシューを追究して自己効力感を高めることの重要性を感じつつも、それが投票に結びつくのか不安視する意見もありました。二点目は、主権者教育の成果を語る際に、投票率しか指標がないことへの違和感について。



ゲスト・モデレーターのセッションの様子

ゲストからは、若者の政治参加のあり方はもっと多様にあるにもかかわらず、わかりやすい投票率で若者の政治参加の状況が判断されがちな点への違和感が指摘されました。三点目は、政治に関わる人・情報にアクセスできる人とできない人の分断が起きていることについて。政治に興味がある人だけが集まってしまう状況をどう変えるべきか、という点にも話が広がりました。そのほか、主権者教育への予算が不十分であるという問題や、模擬投票の場だけでなく、自分の身近な社会課題を考える場が重要であるなどの指摘もありました。

#### 【ディスカッション～まとめ】

トークセッションを受けて、参加者全員がグループで話し合いを行いました。話し合いの際には、トークセッションを聞いて考えたことや、これから何に取り組むべきかを話し合いました。途中では、地方と都市部の差はあるのか、間接民主制の限界があるのではないかなどといった点にも論点が及びました。また、グループの意見を全体共有する際にも、投票率が上がらない点をどう捉えるかという点や、情報にアクセスできない人にどう関わっていくかという点に、注目が集まっていました。

グループの意見を全体共有した後、モデレーターの別木さんから「(一部の人々に声が)届かないのは仕方ないのか？」という問いかけがありました。それに対してモデレーターの古野さんは、参加者の方のコメントを紹介しながら、この6年でやっていること、できていることも多くあり、皆が課題感を感じながら、続けていること自体に意味がある。今後もこういうつながりが大切なのではないかと述べて、会を締め括りました。

(Vol.11.の主な運営スタッフ：古野・別木・浜田・小田切・斉藤 報告担当：斉藤)